

関西の産業遺産をめぐる

NPO法人J-heritage 前畑 温子

1. 産業遺産とは？

みなさんは産業遺産を知っていますか？最近では富岡製糸場や軍艦島などが世界遺産に登録されたこともあり、「産業遺産」という言葉がメディアでとりあげられることも多くなってきました。日本には鉱山、近代建築、軍事財産など様々な産業遺産が残されています。その中には、足尾銅山、八幡製鐵所など、教科書に載っているものもあります。しかし、数多くの産業遺産は一部の人以外、知られていないのが現状です。産業遺産は私たちにとって過去を伝えてくれる生きた教科書として、とても貴重なものだと思っています。

私は今まで日本全国の産業遺産を旅してきました。今回はその中でも関西にあるオススメの産業遺産を3つご紹介したいと思います。

2. 湊川隧道（ずいどう）

兵庫県神戸市に日本で初めてできた河川トンネルである「湊川隧道」があります（隧道とはトンネルのこと）。実はこの場所は私の地元で、地域の宝物だと思っている場所でもあります。

もともとこの湊川は堤防の高さが6メートルもある天井川だったため、普段は問題はないのですが、大雨が降った際は川の水があふれて水害となってしまうのが問題となっていました。そんな中、1896年に起きた洪水の被害が大きかったのがきっかけとなり、翌年には大阪の豪商、藤田伝三郎や小曾根喜一郎らが設立した「湊川改修株式会社」によって川の付け替え工事が行われました。今のままの天井川では水害は免れないことから、会下山の下にトンネルを通す計画となり、その際に湊川隧道が作られることになりました。



写真1. 湊川隧道の入り口通路とその内部

この湊川隧道ができたのは1901年。延長680メートルでなんと当時では世界最大級の規模を誇る我が国初の近代河川トンネルでした。内部のレンガは約450万個使用されたとされており、側壁はイギリス積み、天井などのアーチ部分は長手積み、天井の一部に堅積みなどの様々な手法を使用しています。もちろんこの時代に機械はなく、すべて手作業で作られ、明治の神戸三大土木事業の一つになるほど大規模な工事だったそうです（ちなみに他の2つの事業は鳥原貯水池と兵庫運河）。現在ではその価値が認められ土木遺産にも認定されています。

その後、約100年という長い間、河川トンネルとして活躍してきた湊川隧道でしたが、水害や阪神淡路大震災の影響などで新たに「新湊川トンネル」が作られた事により、2000年にそのバトンを手渡すこととなりました。役目を終えた後は、地域の方たちの保存活用したいという熱い思いにより「湊川隧道保存友の会」が平成13年に発足。現在



写真2. 湊川隧道の転流坑

は毎月第3土曜日に一般公開とミニコンサートを開催しています。トンネルは音の反響が独特で、幻想的な隧道をバックに音楽が楽しめるとても贅沢な時間を過ごすことができます。申し込み不要で誰でも参加することができるのでオススメです。他にも毎年土木の日（11月18日）の頃には通り抜けイベントが開催され、隧道の中を歩き、現役の新湊川の横を歩くことができるので毎年多くの人々が訪れています（https://web.pref.hyogo.lg.jp/kok11/ko05_1_000000028.html）。

また、川の付け替え工事の際に使われなくなってしまった川の跡地は新開地商店街と湊川公園や神戸新鮮市場に生まれ変わっています。新開地商店街では当時の川が流れていた斜面をそのまま使用している他、水の流れをイメージしたモニュメントも見ることができます。湊川公園は当時の天井川の高さのままなので、いかに高い位置に流れていたのかわかる貴重な場所となっています。公園の両端からは下を見下ろすことができるので是非見てみてください。隧道に一番近い神戸新鮮市場は、品揃え、安さ、品質で関西で一番、「神戸の台所」と呼ばれている商店街で買い物を楽しむことができます。実は私はこの市場のものを食べて大人になったと言っても過言ではないぐらい、買い物といえばここを利用しています。もちろん今でも買い物をする時は神戸新鮮市場に行っています。

このように今残されている建物は隧道だけですが、かつて川が流れていたところにもたくさんの見どころがあるので、いろいろまち歩きを楽しんでいただければと思います。

3. 京都大学阿武山地震観測所

茨木市と高槻市の境にある阿武山の中腹に築80年を超える近代建築があります。この建物は京都大学阿武山地震観測所。一本の背の高い塔があり、色も白なので、遠くからも目立っています。

この建物ができたのは1930年。1927年にマグニチュード7.3の北丹後地震が発生したことがきっかけで、地震の研究をするために建てられました。



写真3. 京都大学阿武山地震観測所外観

それまでの地震観測は京都大学本部構内で行われていたのですが、付近に京都市電が開通することとなりその振動で精密機械に影響が起きてしまいました。それを回避するため、300年という長い期間借用する契約を結び、この土地に地震観測所を建設しました。

設計したのは大倉三郎で、京都大学の法学部や経済学部本館、同志社大学明德館などの学校建築だけでなく花山天文台などを手がけ、日本建築学会賞も受賞した設計者です。山の斜面を生かし、西館は2階建て、本館と東館は3階建てで上下左右にずらしたデザインとなっているほか、機能的かつ合理的なモダニズム様式を取り入れています。

この建物の中で、私が好きなポイントが3つあります。

1つ目は窓。一般的な窓は統一した形を使用しているものが多いのですが、ここはなんと面によっていろんな種類の窓が使用されているんです。基本的には形の違う四角の窓が多いのですが、よくしてみると隅丸窓や丸窓も使用されています。これにより、建物が柔らかい印象になっています。

2つ目は柱。まず目に入ったのが入り口にある、まるで神殿のように立ち並んだ柱。手前が一番よく見えるところはスクラッチタイルに包まれた豪華な作りになっており、後ろの柱は特に装飾などもなくシンプルなものになっています。そしてさらに建物の中に入ると現れるたくさんの柱。独立している柱が二本あるのですが、階段の周りを見渡してみると壁と一体となった柱がみられます。直線の中にある曲線がとても美しく思わず見入ってしまいます。

3つ目は塔の内部。外観で最も目立つのがこの塔。内部は屋上まで螺旋階段となっており、たくさんある小窓から光が差し込み、なんとも言えない神聖な雰囲気が漂っています。中心にはフーコーのふりこが地下まで吊り下げられているのが見られます。外からのインパクトも大きいのですが、内部がこんな風に美しい空間だということに衝撃を

受けました。

そして実はこの地震観測所、すごいのは建物だけではありません。展示されている地震計も貴重なものがとても多く残されています。中でも価値があるのが1934年頃に開発された日本製で大地震を正確に記録できた初めての地震計である「佐々式大震計」。また、展示されているものだけでなくデータ管理も素晴らしい。100年以上も前の記録も残されており、現在はそのデータをデジタル化しているということです。さらに観測だけでなく、いろんな人に防災や減災の意識を持ってもらうプロジェクトや観測所の見学会なども行っています。

地震大国である日本。昔からこのようにいろんな調査がされていることを、建物を通して改めて知るきっかけとなりました。見学会の日程、申込みは、阿武山地震観測所のホームページ (<http://abuyama.com/>) をご覧ください。

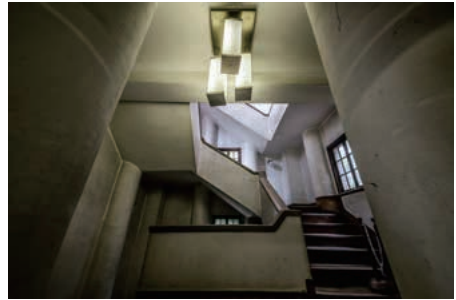


写真4. 塔の内部の階段

4. 姫路市営モノレール

世界遺産「姫路城」で有名な兵庫県姫路市。実はこの姫路市内には鉄道ファンに人気のある姫路市営モノレールの遺構が残されています。

姫路市営モノレールは1966年に開催された姫路城の昭和の大修理完了を記念して開催された「姫路大博覧会」への交通手段としてつくられました。姫路駅～会場となる手柄山までの約1.6キロをつないでおり、総工費は14億5千万円、8ヶ月の工期を要して開業されました。



写真5. 姫路市営モノレール

跨座式モノレールであり、ロッキード式と称され、最高速度は160km/hまで可能。その乗り心地から市民の中では「夢の乗り物」と呼ばれていました。姫路駅、大將軍駅、手柄山駅の三つの駅があったのですが、実はこのモノレールの線路を飾磨・広畑の臨海工業地帯まで伸ばしたり、姫路市内に環状線を建設、さらには鳥取まで伸ばす壮大な構想がありました。

開業当時は人気があり、乗客の数も多かったのですが、短距離だったことや、日本ロッキード社の解散によって部品の購入が困難になったこと、当時の市バスの値段が20円だったのに対し、モノレールは100円とかなりの高額だったこともあり、残念ながら1974年に休止、1979年に廃止となってしまい、その構想が叶うことはありませんでした。

現在、姫路市営モノレールの駅は手柄山駅のみ残されていますが、今回はかつてあった駅も含め3つの駅をご紹介します。

姫路駅は現在の姫路駅前のバスターミナル付近に仮駅として作られました。開通当時は「祝 姫路モノレール」の文字が書かれ、ここから多くの人々が姫路大博覧会へと向かいました。モノレールの休止に伴い、すぐに解体されました。

中間駅である大將軍駅は10階建てで、当時この地域ではとても高い建物だったそうです。軌道が建物に吸い込まれているようなインパクトのある外観でした。1階にはパン屋やサウナがあり、2階にはビジネスホテル、3階～4階が大將軍駅の軌道とホーム、5階から上はアパートになっていました。土地の関係上、緩やかなカーブかかった建物で駅も兼ねている高層ビルだったことから世界的に見ても珍しい建物でしたが、残念ながら今年解体となりました。

最終駅の手柄山駅はレンガ造りのお城のようなメルヘンな建物。当時の姫路市の石見市長がアメリカのディズニーランドに憧れていたことから洋風の建物になったとされています。現在は「手柄山交流ステーション」として生まれ変わり、モノレールの車両や部品、当時の看板、開通当時の映像などを見ることが

できる施設となっています（毎週火曜日ほか休館）。昨年の9月には模型が完成し、当時の町なみやモノレールがどのように走っていたのかを知ることができるのでオススメです。

他にもかつて姫路モノレールが走っていた場所には橋脚がいくつも残されています。姫路市営モノレールを見学しに行く際は是非、姫路駅から橋脚をたどって手柄山へ向かっていただければと思います。

当時、夢の乗り物と呼ばれていた姫路市営モノレール。わずか8年という短い間しか走ることができなかったが、これからは姫路の歴史を伝える貴重な遺産として愛され続けてほしいと思います。



写真6. 大將軍駅外観



写真7. 大將軍駅改札

5. 産業遺産を楽しむための三か条

1. 行くきっかけは気にしない

産業遺産と聞くと、歴史を勉強しないといけないと思っている人も多いはず。でも歴史を知らなくても「カッコいいから行ってみたい」「ちょっと見てみたい」など理由はなんでも大丈夫なんです。まずは現地に足を運ぶことが大切です。

2. ご当地グルメを食べましょう

ご当地グルメにはその地域の歴史が潜んでいることも少なくありません。例えば兵庫県朝来市にある生野銀山ではハヤシライスがご当地グルメとしてあります。この銀山にはかつて全国からいろんな人が働きに来ていたそうなのですが、たまたま都会から来た人がハヤシライスを作り、地元の人が初めて食べてあまりの美味しさに感動したという話があったことから、現在は「ハヤシライス部会」を結成し当時の味を再現することになりました。町のいたるお店でハヤシライスを食べることができるのでオススメです。また、町を歩くことにより、新たな発見やその町が歩んできた歴史を知ることができます。

3. 現地の方とお話ししましょう

私はこれぞ旅の醍醐味と思うのですが、是非、地域の方とお話ししてみてください。産業遺産では地元の方や、昔その場所で働いていた人がガイドをしてくれる場所が多いです。一見、わざわざガイドの方に話を聞かなくても...と思われがちなのですが、産業遺産は建物だけ見てもその良さが十分に伝わらないんです。実際にガイドの方の話を聞くと、どのような場所だったかだけでなく、体験談を聞くことができるのも魅力の一つ。話を聞いてから見る産業遺産はとても面白く、次第にその魅力に惹かれていきます。私はその体験談の面白さから、産業遺産へ行く時は必ず現地の人に話を聞くようにしています。

この三か条があれば産業遺産をさらに楽しむことができるので、是非ご参考にしていただければと思います。是非、産業遺産を訪れてみてくださいね！

著者紹介 前畑 温子(まえはた あつこ)



神戸市在住。写真家・産業遺産探検家として日本中の産業遺産を旅している。NPO法人J-heritageに所属し、戦略企画室室長として産業遺産のツアーやイベントの企画を担当。2014年には日本全国の産業遺産26物件を掲載した「女子的産業遺産探検」(創元社)を出版。2015年の「るるぶ九州」の写真及び文章も一部担当し、「産業遺産 JAPAN」や「産業遺産の記録」の写真も担当している。その他、全国放送のテレビ番組や国内有名旅行誌にも多数取り上げられる。